

させぼ夢大学

発行 ● させぼ夢大学
広報委員会
事務局 / 〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555
FAX.0956-25-9545
sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.170 <2009・1>

平成20年度
第9回

2009 **1月15日(木)**
アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30
●夢のひろば 午後 6:00
●講 演 午後 6:30

今回は、「新婚さんいらっしゃい！」をはじめ、数々のテレビ番組の名司会でおなじみの、いつも私達を楽しく明るく、そして活力を与えてくださる桂 三枝さんをお迎えします。

枝 三枝さんは昭和41年に3代目桂 小文枝に入門以来、ラジオ、テレビ、舞台、映画で活躍する一方、150席以上の新作落語を生み出し続ける創作落語のパイオニアとして文化庁芸術祭演芸部門大賞、上方お笑い大賞など数々の賞を受賞、上方落語協会会長に就任されるなど、40年間にわたり活躍されています。

このようなこれまでの功労が認められ、平成18年秋、紫綬褒章を受章されました。



かつら さんし
講師 ● 桂 三枝氏
テーマ ● 桂 三枝という生き方

「テレビをつけるといつの時代も三枝がいた」といわれるほどの三枝さん、その衰えを知らないバイタリティーはどこから生まれてくるのでしょうか。それは「好きな落語の世界に、母の反対を押し切って入り落語家になったことで、決して諦めない気持ちを持ち続けることができるから」と言われます。

また、「作り続ければいつか先の時代に受けるかも」という夢と希望を持っているからだとも言われます。

和服・洋服ともにお似合いの三枝さん、どんないでたちで、どんな楽しいお話が聞けるかわくわくします。

「三枝さん！いらっしゃーい！」

次世代につなげたい落語文化

今回の講演は60分の予定です



次回のご案内

- と き / **3月5日(木)**
法政大学社会学部教授
たなか ゆきこ
- 講 師 / **田中 優子氏**
- テーマ / **江戸の生活と文化**

●神奈川県横浜市生まれ。法政大学文学部卒業、同大学大学院人文科学研究科博士課程修了。法政大学第一教養部専任講師、同助教授、教授を経て、現在は社会学部教授。近世文化の研究にとどまらず、近年は江戸時代の社会・文化など幅広い分野での研究を行っている。

きっぷのよい語り口で、わかりやすく粋に江戸文化を語り、近年はTBS「サンデーモーニング」のコメンテーターとしても活動している。

処女作「江戸の想像力」で芸術選奨新人賞、「江戸百夢」で芸術選奨大田賞を受賞。その他の主な著書に「近世アジア漂流」「江戸の恋」「江戸を歩く」「カムイ伝講義」など多数。2005年、紫綬褒章を受章した。

桂 三枝氏のプロフィール

●昭和18年、大阪府生まれ。41年、3代目桂小文枝(現5代目桂文枝)に入門。ラジオ「歌え！ヤングタウン」、テレビ「ヤング OH! OH!」の出演で一躍スターダムに。58年、創作落語「ゴルフ夜明け前」で文化庁芸術祭 大衆芸能部門大賞を受賞。第10回上方お笑い大賞の大賞、大阪府民劇場奨励賞など数多くの賞を受賞。平成18年、紫綬褒章受章。また、外務省の海外広報事業の一環としてワシントン、シカゴで「ダンシングドクター」を同時通訳付きで披露し、大爆笑を誘った。

おなじみのレギュラー番組「新婚さんいらっしゃい」(朝日放送)に加え、NHK連続ドラマ「ほんまもん」にも出演。現在、上方落語協会会長を務めるなど、精力的な活動を続けている。





羽ばたく蝶々に

西彼町 瀬戸崎 齋

今回の夢大学は取り分け聞きがいがあり共鳴することが多かった。

先に戴いた会報で紹介があったように、講師は紳士的で優しい話しぶり、時にはジョークを交えての流暢な講演であって、内容が豊富で具体的に迫力があり、御自身の体験に基づくもので説得力があった。

今、国の内外を問わず世界中が大恐慌の渦に巻き込まれようとしている。そんな中、国内では地域格差が広がり、人口流失のひどいところでは、地域の人々の心の拠り所であった、学校が廃校となり、唯一の金融機関でもあった郵便局さえもなくなろうとしている。

この儘では、人々が心豊かに暮らしていた故郷がなくなってしまうであろう。

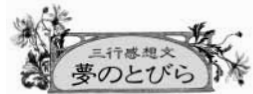
今、私も地方や国をどうにかせねばならない時に来ている。講師が言われるように住民のエネルギーを結集して、日本を丸洗いし、地方を変え国を変えていかなければならない。

わが国には、古くから「金はお上(役所)に貰え。補助金がなければ何もできない。何もしない」という風習が横行しており、いまだに根強いものがある。まずは、この体質を改めることが肝要である。

補助金体質からは縛られる事が多く、柔軟な発想は生まれてこない。

夕張市の成人式の紹介があったが、みんなが主になって努力すればできることはたくさんあると思う。

地域においては、住民あげての



■地方政治を担っておられた時の体験を包み隠さずダイレクトに「裏金がいります。赤福を中央に持参しました。」と話されたのには、少々ショックもあったがこれが世の中の慣習や仕組みだろうかと思ひ、氏の勇気に拍手したいものです。最後は厳しい話が続き我々国民がしっかりせよとのメッセージと理解しました。
日宇町●北島 幸子

■現在の政治では全く失われている。講師が推進する「生活者起点」の政治を取り戻す必要を痛感し、その視点から真に実現可能なマニフェストかを見極めて選択する大切さを改めて学んだ。「せんたく」と「せんたく議連」の今後の益々のご活躍とご発展を心より期待したい。
花高●土井 芳生

■一羽の蝶になり羽ばたいてほしいとのこと、もうこの歳では羽ばたけない!はて、さて、どうする…!
折橋町●田口 清紀

■北川先生のお話は、なんと力強い語りかけでしょう!! そんなもんだと思ひ込んでいる事が多いのを実感しています。
春日町●有吉 成子

■ホーリーベルズの素敵なチームワークでのハンドベルのやさしい音色に心を洗われ、来年度の講師の豪華メンバーの紹介におどろきました。
大和町●宅島富士彌

■今年の文字「変」につながる変革を熱く語られ、眠っている私をゆり起こしてくれました。地方から発信して日本を動かす情熱を若い人々にも大いに聞いてもらいたいと思ひながら感動いたしました。
横尾町●小川 仁司

■一羽の蝶のお話は、楽しい授業でした。私のマニフェスト…本は大好き。孫に読んであげたい絵本を明日、探しに行ってきます。
木風町●西 照美

清掃活動(道路・海岸等)、子どもたちの健全育成や登校下校の安全を守る活動など、補助金に関わりなく実践されているところは少なくない。この事は、やればできることの証である。

一羽の蝶々がはばいたところ、でなんの力にもならない。人間だつて同じである。それが数を増すことによつて大きな力となり、地域を変え国を変えることになると思う。

今私たちは、それを直ちに実行に移さねばならない時である。

今回は、住民(国民)が考え、力を結集して取り組まなければならぬ大事なことを教示していただいた九十分であった。

一羽の羽ばたく蝶々たりうるか…

小舟町 毛利 稔

混迷を深める経済の縮小と政治の流れの中で、私達の、そして将来ある子供達の生きていく社会基盤を支える術はあるのか。「如何に気づき、共鳴し、行動するか」

かかっている」と説かれる氏のパワフルで明快な語り思わず身を乗り出した。

歴史は語る。蒸気機関の発明に産業改革の力を知り、明治維新の流れが起こる。流れは薩長土肥の若い志士たちによつて引き起こされ新政府がつくられた。郵便、学制改革、道路や鉄道の整備等ここでも科学技術が先行、後に憲法発布の流れとなった。未だ方向の定まらない時にそこでも「蝶々」が羽ばたいた。今私達は、IT革命の真つ只中で翻弄される状況にあるといえる。そして、このことに気づいたとしても、生活を便利に快適にする道具位にしか多分捉えていないかもしれない。

「昨日の続きが今日で少しよくなれば」は、「人生を紡ぐ」意では大切なこと喜ばしいことであるが、それでは済まなくなりつつある

るとも説かれる。人が集まる所、物流、労働、経済そして文化の中心に更には集まり、いつの間にか大都市社会が出来上がった日本。過疎化する地方の有様。そんなさしめたのも其処に住む人。氏の言われる「立ち位置」の転換。地域・生活者起点の発想でちよつとずつ変えていけるのではの想いを抱かずにはおられません。地方にも小さな「むらおこし、町おこし」で生き生きと暮らす人達の集まりが多くあることをインターネット社会は伝えてくれます。

プロ野球好きの私ですが、球団オーナーが言われてみれば先端IT関連企業に取って代わった流れの意味を理解できず、ひいきの球団が強ければ位の単細胞。ある体制が長く続いた慣れ、こんなもんだ”この思い込みは、物づくり社会の職場でも気づかない。しかし

夢走る新年

明けましておめでとーごいいます

夢のひろば

◆ 日 時 / 1月15日(木) 午後6時00分~20分

◆ 演 目 / 邦楽演奏(箏、三絃、十七絃、尺八)

◆ 出 演 / 「菊の会」(主宰 菊雅楽孝子)
「茜山会」(主宰 山本茜山)

◆ 出演団体紹介

「菊の会」は、箏や三絃などの日本の伝統楽器の良さをもっとたくさんの人に知ってもらいたいという思いから、菊雅楽孝子を中心に昭和47年に設立された団体で、今年で創立37年になります。これまで、人間国宝の山本邦山先生をはじめ、沢井忠夫先生、沢井一恵先生、横山勝也先生、菅原久仁義先生、藤原道山先生など著名な演奏家を招いて、佐世保市や長崎市などで演奏会を開催してきました。また、アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ各地でもコンサートを行い、好評を博しています。

◆ 曲 目

1. 和楽器のための「童夢」 吉崎克彦 作曲

この曲は、子どもたちが和楽器にもっと親しめるようにという思いで作曲されたもので、「かくれんぼするものよっといで」「いちじくにんじん」「ずいずいずつころばし」「だるまさんだるまさん」など、昔から歌われてきたわらべうたが、随所に盛り込まれています。

2. 箏独奏曲「綺羅」 柘屋正邦 作曲

綺も羅も、ともに美しい布を表す言葉です。この曲は、箏曲の最も基本的な調絃法である「平調子」の調絃を用いて、日本の美しい情景を箏の独奏で表現しています。曲の後半では、スティックで絃をたたくなど、ユニークな演奏方法も登場します。どうかお楽しみに。



ホーリーベルズの演奏

佐世保からでも変えられる! 日が覚めました北川さん!!

テレビでお見かけする北川さんの、あの明るいイメージと話しぶりに期待して今回も夢大学に参加した。思っていたとおりのエネルギーが豊富な講演で、時間があっという間に過ぎてしまった。長い間政治行政に携わっておられたので、県政や国政の裏も表も知り尽くした話の内容は説得力があり、驚いたりうなずいたりすることが多かった。

関心を持つことから
針尾中町 原田美恵子

打破しなければならぬ事柄もある。北川氏の視点でも見えてくる大きな流れの転換点にある今、地方に生きる人達が心豊かに、元気になるキーワードのひとつは「行動する」でしょうか。

長く続いた江戸時代が、薩摩や長州の一羽の蝶々のほばたきともいえる小さな力から大きな力となって、近代国家をめざした明治へと大変革を成し遂げる事が出来た。昨今の政治のありようも、力強くはばたくリーダーがいなくて、まとまりのないものになっていく気がする。又、選挙の時だけの「マニフェスト」では日本は良くならない。行政は中央から地方分権へといわれるが、まずは人まかせばかりでなく、地域の一人一人が政治にも関心を持つことから始まるのではないだろうか。

「昨日の続きではダメ、新しい価値を見出さなければ」ということを何度もいわれた。確かに自身や、世間一般の事を考えてみると、長い間の習慣、その他の事を容易に変えることはできにくい。いろいろな事に視野を広げて、従来からの思い込みに縛られては



かりではいけないなど痛感した。話を聞き、北川さんにもう一度国政に戻ってもらいたい気もする。現在大学で教鞭をとっておられるので、ぜひ、次代を担う若者たちが、これから大いにはばたくようにご指導いただきたいと願うものである。

講演時間も定刻にピタリと終わられ、さっそうと引かれる姿も実に爽やかだった。

1/15(木)の講演会当日、アルカスSASEBO会場にてのみ受付!

会員専用・優先 平成21年度・18期 受講申込書(個人・夫婦・家族共用)

020 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> ← (学生証の番号を記入してください)			
住 所	郵便番号	—	電話() —
	フリガナ		
① 氏名		性 別	年 齢
		男 女	歳
フリガナ		性 別	年 齢
② 氏名		男 女	歳
フリガナ		性 別	年 齢
③ 氏名		男 女	歳

ご注意ください!

- ① 学生証の番号未記入は受け付けられません。
- ② 年間受講料
◆ 個人会員
1人…15,000円
◆ 夫婦・家族会員
1人…14,000円
- ③ 夫婦・家族(3名以内・同居)でお申し込みの方はどなたかが会員であれば受け付けます。
- ④ 当日は確認する時間がないので、記入もれがないようにご留意ください。
- ⑤ 事務局では、この申込書による事前事後の受付はいたしません。ご了承ください。



9

全身小説家

井上光晴

小西宗十

井上光晴の告別式会葬御礼は次のように簡潔に記されています。

「皆様御承知のごとく、抑圧するすべてに抵抗しつづけた井上光晴は、その遺志を残し伝えながら、無限永劫の国へ向かって旅立ちました。その無限出発を、遠く千日会堂まで、お見送りいただき、まことにありがたく、ここに、厚く、深く、感謝申しあげます。」

一九九二年六月八日

喪主 井上郁子

友人代表 植谷雄高

文字通り井上光晴は決してぶれることなく抵抗を貫いた。文学を唯一の武器として。戦時中の皇国少年としての体験と、戦後の革命家としての体験とを通して、現代日本の抑圧装置がど

のようなものか骨の髄から知ったに違いない。彼はドン・キホーテのように、たった一人で、その装置を撃ち、挑み続けたのである。

井上光晴はさまざまな実験的手法を駆使して小説を書いた。世の中が経済成長に浮かれていたまさにそのとき、井上の小説群は、無名の人々の夢想、つぶやき、思念、独白が幾重にも重なって響く不協和音の世界を奏でていた。それは、現在が、明るいのではなく暗く、軽やかなのではなく重苦しく、自由ではなくて拘禁に過ぎないことを、無限に続く壁画のように示していた。

社会の底が割れてしまった今になってみれば、現実には井上光晴の子見どおりだった。「人を殺してみたかった」という少年たち、「死せる魂」顔負けの派遣業者、あるいは姥捨行政、あるいは偽装表示のペテン師など、現実には登場している怪物たちはとうの昔に、彼の物語の中に描かれている。

文学の鬼・井上光晴は、同時に好き人だった。ふるさと佐世保を愛し、友を愛し、家族を愛し、女性を愛した。彼を知る誰もが、あの朗々たる大音声懐かしむ。

昭和元年、中国(当時の満州)の旅順で生まれた。四歳のとき

に母と生別。陶工の父は中国を放浪、消息を絶つ。祖母、妹とともに父方の親類をたよって伊万里皿山に身を寄せる。七歳のとき佐世保市に移り、白南風町に住むが、生活に困窮し、祖母と崎戸炭鉱へ移住。

一九四五年、日本共産党長崎

地方委員会の創設に参加、翌年九州評論社(佐世保市)の創立に参加。一九五〇年「書かれざる一章」。一九五三年、日本共産党を離党。一九五六年、結婚、上京。

作品に「ガダルカナル戦詩集」「虚構のクレイン」「地の群れ」「他国の死」「象を撃つ」「心優しき反逆者たち」「丸山蘭水樓の遊女たち」「暗い人」など。

一九七七年、文学伝習所を佐世保に開校。

一九九二年五月三〇日、六十六歳で死去。



崎戸町にある井上光晴歌碑

平成21年度(第18期) 講演会予定

- 平成21年
- 4月16日(木) 開講式 森本 敏氏
 - 緊迫する国際情勢と日本の対応
 - 5月19日(火) 中村 玉緒氏
 - 女優として妻として女として
 - 6月18日(木) サイ・イエンガン氏
 - ベストアルバムコンサート
 - 7月23日(木) 三笑亭夢之助氏
 - 笑いのある人生
 - 9月16日(水) 齋藤 孝氏
 - コミュニケーションを拡げる日本語の力
 - 10月15日(木) 藤田 紘一郎氏
 - 「イキイキ長寿健康法」免疫力を高める生活
 - 11月13日(金) 江守 徹氏
 - 芝居と人生
 - 12月17日(木) 宮川 泰夫氏 (交渉中)
 - 魅力ある街とは ~のど自慢12年の旅から
- 平成22年
- 1月21日(木) 桑田 真澄氏 (交渉中)
 - 私のプロ野球人生
 - 2月18日(木) 海老名 香葉子氏 (交渉中)
 - 泣いて笑ってがんばって



●会員優先申込書のご活用を!

年末から会員募集についての電話等での問い合わせが殺到しています。会員でない方からの問い合わせも多く、皆さんの関心の高さにうれしい悲鳴を上げています。年明けと同時に、いよいよ事務局も来期に向けてフル稼働です。

来年度18期生については、この「夢のつづき」に掲載している申込書により、現会員の方を優先して受け付けます。

★2月中旬、会費振込用紙の郵送
★3月下旬、学生証の郵送

●18期の講師がほぼ確定

来年度18期の講演会企画を

始めたのが昨年の8月下旬。10月初めからは具体的・本格的に検討に入りました。政治、経済、音楽、スポーツなど幅広いジャンルから著名な講師さんをお願いするのですが、どの講師さんも日帰り圏(関東・関西地区)で引っぱりだこで、遠路佐世保まで1泊2日でお越し頂くことになると大変です。ですから、半年先は言うに及ばず、1年先のスケジュール調整がうまくかみ合わず、予定を変更せざるを得ないこともあります。どうぞご理解ください。

